

資料4

第18回国土交通省東日本大震災復興対策本会合資料

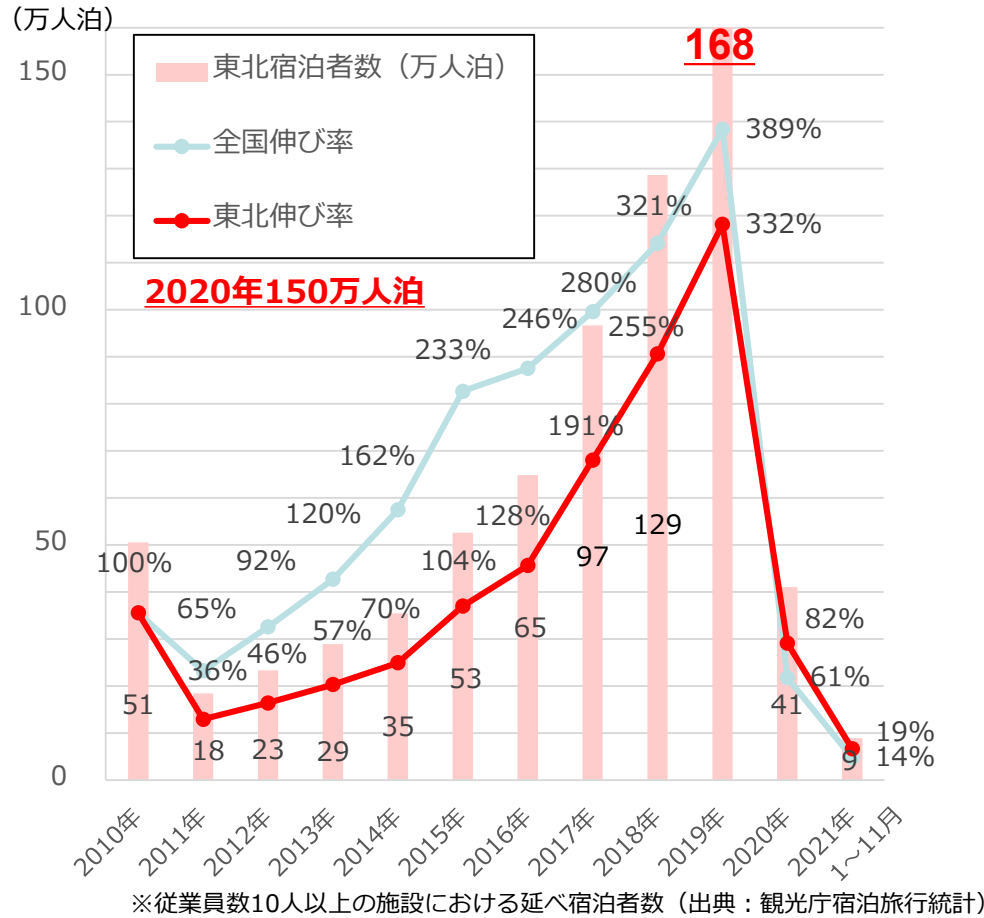


～復興・創生の実現に向けて～

令和4年3月29日

東北運輸局

訪日外国人旅行者数の現状と観光ビジョン目標



訪日プロモーションの主な取組

訪日旅行再開後の早期回復を目的とした多彩な情報発信

新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく落ち込んだ訪日旅行需要の早期回復に向けて、東北観光推進機構等と連携し、欧米や東アジア・東南アジアの各市場においてオンラインメディアを活用した純広告を実施するほか、在日の海外向けメディアやインフルエンサーを招請し、東北の認知度向上に取組む。



香港のインフルエンサーによる取材の様子(蔵王キツネ村)

また、訪日旅行再開後早期の送客が可能となるよう国内にも拠点がある海外旅行会社の招請等を実施。

3.11伝承ロードの情報発信

3.11伝承ロード推進機構と連携し、台湾市場に対し東北の太平洋沿岸地域における固有の歴史・伝統文化、雄大な自然景観と合わせ震災伝承施設等での生命・防災に対する学びについて発信・訴求し、認知度の向上を図る目的で、在日の海外向けメディアの招請や教育旅行関係者向けセミナー等を実施。

新たなコンテンツ造成の取組

アドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業 (みちのく潮風トレイル 岩手～宮城)

「歩く」をテーマに、みちのく潮風トレイルに焦点をあて、リアス式海岸が生み出す漁場や三陸沿岸の伝統芸能、震災伝承等の資源を通じ、この地に深く踏み込み、暮らす人々との心が触れ合うようなコンテンツの造成を行う。



みちのく潮風トレイル

沿岸地域ならではの自然・文化を活かした商品開発を通して、地域関係者が自立的・継続的に取り組める体制構築を目指す。

コロナ禍における誘客促進の取組

地域観光事業支援 (需要創出支援・県民割)

- 感染状況が落ち着いている都道府県が行う県内旅行の割引事業を支援することで、感染対策と経済を両立しつつ、旅行需要を下支え。
- 令和3年11月19日以降、対象に隣県を追加できるよう制度改正したものの、感染拡大の影響に伴い、各県で運用停止・規模縮小等の対策を措置中。
- 令和4年4月1日より、同一地域ブロック内からの旅行にも支援対象を拡大。

観光事業者と多様な関係者が連携した地域の観光資源の磨き上げ

- 陸前高田サイクルシティ推進プロジェクト (岩手県陸前高田市)
- 東北レジリエンス・ツーリズム創生事業 (宮城県名取市)
- せいろ湯籠を活用した“蒸しストップ”周遊・Myちろりで源泉温度別爛酒飲み比べプロジェクト (福島県郡山市)

採択件数 岩手県 10件、宮城県 15件、福島県 6件

※岩手県、宮城県については、県をまたいで連携するものを各々計上。

三陸沿岸道を活用した高速バスの実証運行

- 仙台空港・仙台～気仙沼・山田・宮古
- ・実証期間：R3.10.22～R4.1.31
- ・運行会社：岩手県北自動車、宮城交通
- ・料金：片道3,500円【所要：約4時間】



- ※R4.2.1～ 実証運行を継続
- ・岩手県北自動車の単独運行
- ・仙台空港への乗り入れを停止
- ・貨客混載等の増収策も検討

MaaS「海街めぐり」

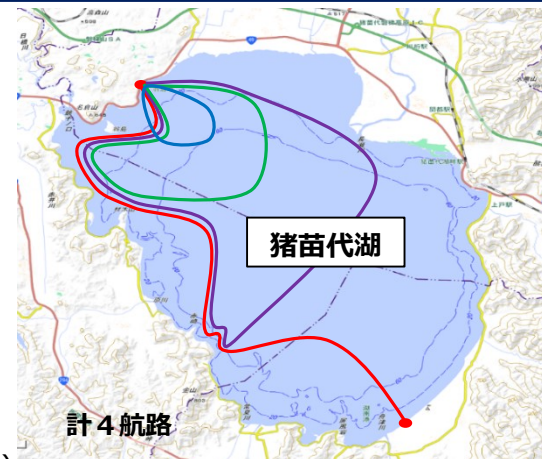
- 石巻エリア（石巻市、東松島市、女川町）における交通・飲食店のデジタル決済が可能なスマートフォン専用サービス

- ✓ DMO（一般社団法人石巻圏観光推進機構）が主体となり運営
- ✓ 12～1月に実証実験を行い、課題やニーズ等を検証
- ✓ 今後の本格導入に向けて、関係者間で引き続き検討を進めていく予定



猪苗代湖遊覧船の運航再開

- 「かめ丸」・「はくちょう丸」
- ・R2.6 前運航会社の破産により、運航停止
- ・R3.7 有志による新会社「(株)猪苗代観光船」が設立 事業承継
- ・R3.8～ 改装費用等の調達
 - ・クラウドファンディング（約1,638万円）
 - ・既存観光拠点・高付加価値化推進事業費補助金（766万円）
 - ・訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業補助金（95万円）
- ・R3.10 「はくちょう丸」が運航再開
- ・R4.4 「かめ丸」が運航再開予定（※レストランを活用したイベント船）



東日本大震災から11年が経過し、震災後に採用された東北運輸局職員が4割に達しようとしている状況を鑑み、この震災を風化させることなく、当時の運輸局職員の経験や災害対応を確実に伝承することを目的に「東日本大震災の記憶を未来につなぐ会」を開催しました。

東日本大震災の記憶を未来につなぐ会の概要

【対象者】

H28.4.1以降の新規採用者、他管内職員希望者
 (これ以前の新規採用者(当時の本局・宮城支局職員)はH28.3実施の「3.11東日本大震災の経験を未来につなぐ会」へ参加。)
 また、本会参加者は実参加及びweb参加あわせ60名程度

【実施内容】

- ・当時の被災した状況や対応をまとめた東北運輸局作成動画や写真を交え、どのような状況下で運輸局として何を行ったのか全般的な記憶を伝えた
- ・震災時の業務対応、復興の取組の講話
 観光、鉄道、輸送、登録、海事業務など様々な業務において当時、最前線で奮闘した職員から、どのような災害対応を行ったか、その当時の業務状況などを踏まえ、自らが学んだこと、若手職員等へ伝えたいことなどを各担当者の思いを伝えた
- ・今後の震災復興に向けた取組についての運輸局長メッセージの発信
- ・対面、web配信兼用で広く視聴できる体制を構築
 録画した動画をファイルサーバにて保管。職員がいつでも視聴できるようにした。

【その他】

- ・本会の様子は地元紙(河北新報)も取材にいただいた。



これまでの伝承の取組

OH24.3

東日本大震災後の東北運輸局活動記録 ～復興への歩み～
 発行

OH25.3

東日本大震災後の東北運輸局活動記録 ～復興への歩み～
 【続編】
 発行

OH26.3

東日本大震災 ～3年間の活動記録～ 発行

OH28.3

3.11東日本大震災の経験を未来につなぐ会(座談会)開催

OR3.3

- ・東日本大震災 復興10年の記録 発行
- ・東日本大震災 復興10年座談会 開催



復興10年座談会の様子

東日本大震災 復興10年の記録



復興10年の記録表紙

令和4年3月16日福島県沖を震源とする地震への対応

地震の概要

- (1) 発生日時：2022年3月16日（水）23時36分
- (2) 震源・規模：福島県沖 マグニチュード7.4（暫定値）
- (3) 震源の深さ：57km（暫定値）
- (4) 震度：6強 宮城県登米市、蔵王町
 福島県相馬市、南相馬市、国見町
 6弱 宮城県石巻市、名取市、角田市、岩沼市、栗原市、東松島市、大崎市、
 大河原町、川崎町、亘理町、山元町、涌谷町
 福島県福島市、二本松市、田村市、伊達市、桑折町、天栄村、楡葉町、
 富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町、飯館村
- (5) 津波の状況：3月16日23時39分 津波注意報発令 宮城県・福島県沖
 3月17日 5時00分 津波注意報解除

東北運輸局の体制等

- ・3月16日（水）23:36非常体制【地震】
- ・対策本部会議開催（参加）状況

○国土交通省特定災害対策本部会議	… 2回（web参加）
○東北運輸局災害対策本部会議	… 6回

東北運輸局の対応

- 新幹線運休区間への対応
 - ・J Rバス東北ほか乗合バス事業者及び関係バス協会あて、増便等の対応準備と協力を要請 関東運輸局からも同様に協力要請を行い、
 - 仙台→首都圏方面への高速バスは3/20(日)に本便運行(27便)のほか、続行便・臨時便をあわせ計60便を運行。
 - 首都圏→仙台への高速バスは3/19(土)に本便運行(27便)のほか上記同様に計64便を運行。
 - ・また、新幹線代替交通（鉄道・高速バス・航空）の運行状況についてプレスリリースを行うとともに東北運輸局HPへ掲載し、随時内容を更新している。
 - ・その他、仙台発首都圏行き的高速バス乗り場・待合所等の現地視察を行った。

- 被災観光関連事業者への対応
 - 3月18日「特別相談窓口」を設置しについてプレスリリースを行い観光関連事業者への被災対応を実施中。

- リエゾン対応
 - 発災直後から宮城・福島・山形の各県にリエゾンを派遣し情報収集
 - <運輸局関係の支援要請は特に無し>
 - (3月25日現在、延べ19名派遣)

被害状況の概要

〈新幹線〉

東北新幹線 白石蔵王～福島駅間で車両脱線。（乗客75名 けが人5名）電化柱・高架橋損傷などの施設被害が発生し、3/22現在、郡山～一関駅間で運休。
 ※4月20日前後での全線復旧を目指す。

〈在来線〉

発災直後、管内の在来区間で運休が発生、翌17日より順次、運休区間の運行再開したものの、J Rは3/24常磐線（原ノ町～新地間）運行再開により全線復旧。阿武隈急行（全線）では橋りょう損傷や道床流出等の施設被害により、3/25現在も運休中。

〈高速バス〉

発災直後、東北管内の高速道路が通行止めとなったため、管内発着の高速バスは運休したが、高速道路の通行止め解除（東北道17日15:30解除、常磐道18日12:00解除）に伴い、順次運転再開。

〈路線バス〉

福島県内において、路線上の橋りょうの損傷等の影響により、一部、迂回・折り返し運行。

〈宿泊施設〉

宮城県・福島県内の宿泊施設において、配管損傷やガラス等室内施設の被害を生じている施設あり。

〈観光施設〉

仙台城、白石城などで石垣崩落や壁のひび割れ等の被害あり

〈その他〉

建物等施設にひび割れや天井破損、シャッター破損等の一部被害と倉庫における荷崩れ等の被害があったが、営業に支障がある被害はなし。

○新幹線代替交通及び被災関連事業者への対応についてホームページで周知

<https://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/sm/sm-sub15-5.html>



3月24日現在の代替交通の運行状況

鉄道：臨時便19便、快速化7便、区間延長2便、高速バス：6者28便の増便、運行車両44台増、航空：臨時便26便、大型化10便